

平成30年度 事業報告

社会福祉法人ともいき会

◇法人理念「ともいきる」

理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢

・人を大切にします

ひとりの「人」として向き合うこと。
相手の良さを知り、自分の良さを知ること。
相手から学び続けること。

・誠実に向き合います。

人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。
仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。
行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。
法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。

先が見通せることで保護者に安心感を与えること。
できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。
はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388-8007

TEL 026-299-3787

長野県長野市篠ノ井布施高田1034-3

FAX 026-299-3839

2. 役員組織

理事:6名

監事:2名

評議員:7名

3. 総括

長野市においては、第五期(平成30年～平成32年)障害福祉計画(障害者総合支援法)及び障害児福祉計画(児童福祉法)が策定され、○ひとりひとりの尊重、○地域生活移行の推進、○地域で支えあう福祉の推進という3つの基本的視点が掲げられました。成果目標としては、福祉施設から一般就労へ移行H28実績63人⇒H32目標95人、就労移行支援事業利用者の増加H28実績129人⇒H32目標200人等いずれも拡充されるなど、改めて当法人で取り組んでいる事業の方向性を確認しました。当法人では、変わることない法人理念の実現に向けて、基本姿勢に立ち返りながら支援に取り組んできています。

平成30年度には報酬改定が実施され、当法人としては全体的にマイナス改定となりましたが、12月には就労定着支援事業を開始、サービスの質の向上、また利用される方々のニーズに応えられるように検討、計画してきました。今後も地域の中で必要とされる法人として、サービス提供に取り組んでいきます。

【組織】

平成29年4月社会福祉法等の一部を改正する法律が施行されたことにより、定款の変更、経営組織である役員等の体制も変更になり、新たなスタートが切られました。

当法人では、理事会、評議員会がそれぞれ牽制する機能を発揮できるように会を開催し、また開示情報として、福祉医療機構が運営する財務諸表等電子開示システムに法人データを載せるようになりました。ホームページの活用も随時実施しながら、情報公開、情報提供を行いました。

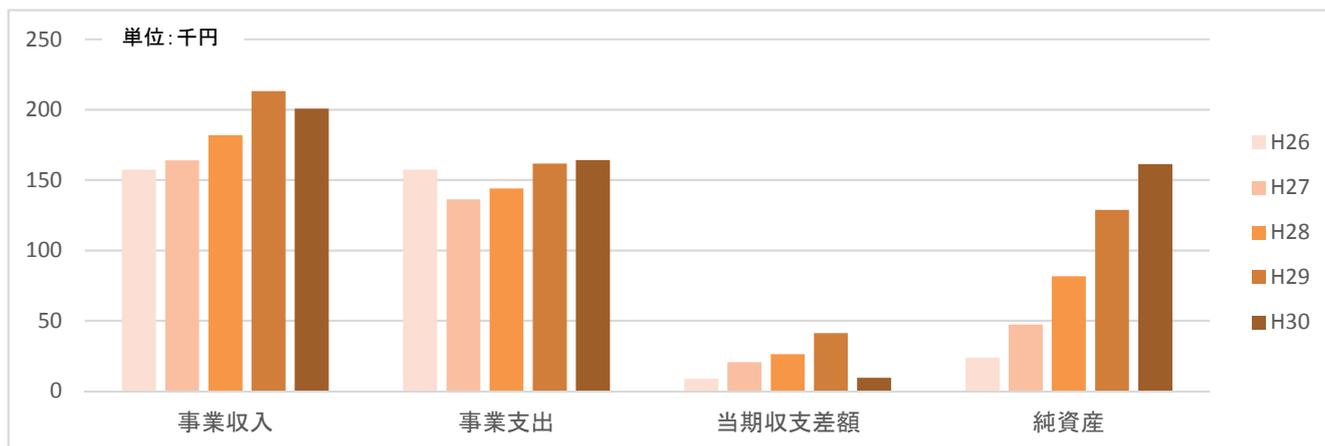
職員組織としては、人材育成、権利擁護、リスクマネジメント、安全衛生の部会を中心に、日頃からの啓発、また研修などに取り組んできました。そのこともあり、職員が今まで以上に法人理念、基本姿勢、事業目標に目を向け、考える機会が増えてきています。

【経営】

社会福祉法人ともいき会 過去5年間決算推移

(単位:千円)

	H26	H27	H28	H29	H30
事業収入	157,380	163,886	181,866	213,086	200,783
事業支出	157,403	136,224	143,874	161,610	164,220
(うち人件費)	116,412	102,824	109,993	126,307	128,596
人件費率	74%	63%	60%	59%	64%
福祉事業活動資金収支差額	-23	27,662	37,992	51,476	36,563
就労支援事業活動収支差額	-713	-728	-385	-897	-855
施設整備・財務活動収支差額	9,633	-6,374	-11,340	-9,308	-26,351
当期収支差額	8,897	20,560	26,266	41,271	9,357
純資産	23,805	47,405	81,637	128,844	161,294



当法人の経営状況については、H26年度から徹底的に見直し、立て直しを図ってきており、一定の成果を得てきています。

昨年比、収入減については、H30年度報酬改定の影響を大きく受けました。年度予算の中でも減収を見込んでいましたが、その中でも職員全員が、経営面に意識を持ち、サービス稼働率の向上や、支出の削減に目を向け、それに対して具体的な対策を立て、実行してきたことで、一定程度の黒字を残すことができました。施設整備・財務活動収支差額の増加とそれにより当期収支差額が大幅な減少をしているのは、施設整備積立金として支出し、純資産として残している形となったためです。

地域、利用者、職員への還元・貢献を進めつつ、法人として次の事業展開への検討段階を図っていきたいと思います。

【事業】

H30度については、障害福祉サービスにおける新規事業である「就労定着支援事業」を12月に開始しました。従来から行っていた就労定着のための支援が事業化されたということで、センターとしては前向きに受け止めています。「就労移行支援」を利用して、就職した方が、就職後6か月後から「就労定着支援」を利用していくという新しい流れを、サービス利用開始時に説明することで、利用者の働き続けたいという願いを安心という形で支えることができるようになって感じています。

「生活介護」における実施場所の手狭さという課題については、まだ具体的な移転候補等策定できていませんが、施設整備積立という形で資金的な確保ができる準備を行いました。

4. 法人内会議

会議名	回数	主な協議内容
理事会	3	<ul style="list-style-type: none"> ・6月11日 平成29年度事業及び決算報告 ・11月13日 平成30年度上半期事業報告及び会計 ・3月25日 平成31年度事業計画及び予算
評議員会	1	<ul style="list-style-type: none"> ・6月27日 平成29年度事業及び決算報告
運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
各部会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成部会 ・安全衛生部会 ・権利擁護部会 ・リスクマネジメント部会

5. 諸会議への参加

- ・長野市ふくしネット(就労部会、かつどう部会、子ども部会、相談支援連絡会)
- ・千曲坂城福祉ネット(子ども部会)
- ・須高自立支援協議会(しごと部会)

6. 職員研修

(1) 外部研修

月	人数	内容	月	人数	内容
5月	1人	就業支援担当者研修	11月	1人	地域生活研究会
	2人	相談援助スキルアップ研修(ベーシック)		2人	虐待防止・権利擁護研修
	1人	発達障害の理解と援助		2人	南関東ブロック会議経験交流会
	1人	生活支援ワーカー研修		1人	自立支援協議会就労支援部研修
	1人	職場適応援助者支援スキル向上研修修了者サポート研修		1人	相談援助スキルアップ研修(ステップアップ)

6月	1人	支援技法活用セミナー(セルフトーク)	12月	2人	就労支援フォーラム
	2人	長野県就業生活支援センター連絡議会研修会		1人	虐待防止・権利擁護研修
7月	1人	けんりに関わる学習会	1月	1人	支援技法活用セミナー(アンガーコントロール)
	1人	精神保健福祉担当者基礎研修会		1人	相談支援専門員スキルアップ研修
8月	1人	権利擁護推進基礎セミナー	2月	2人	福祉関係職員専門研修
9月	1人	福祉職員生涯研修(中堅)		1人	就業・生活支援支援センター全国フォーラム
	1人	福祉職員生涯研修(チームリーダー)		1人	主任職場定着支援担当者研修
	1人	強度行動障害支援者養成研修(基礎)	1人	精神障がい者就労支援研修	
10月	3人	地域発達支援研究会	3月	3人	サービス管理責任者養成研修
	1人	福山大学兵庫大学合同勉強会		1人	発達障がい者就労支援研修
	1人	支援技法活用セミナー		1人	相談支援専門員スキルアップ研修
				1人	相談支援従事者専門分野研修

(2) 内部研修

月	人数	内容	月	人数	内容
4月	2人	新人研修	11月	5人	新人研修
5月	全員	幹部による職員面談		5人	法人内OJT研修
6月	全員	法人全体研修「権利擁護」		全員	法人全体研修「危険予知」
7月	3名	法人内OJT研修	2月	全員	法人全体研修「一年の振り返り」
9月	全員	法人全体研修「防災」		全員	職員面談
10月	全員	職員面談			

・外部研修として、今年度は33研修43名(うち県外:4研修)の職員を研修として派遣しました。人材部会が窓口となり、受講歴のない研修に参加したり、職員からの受講希望により研修参加が増えています。職員自身が今、法人や部署にとって必要なスキルアップを図りたいという意識の向上が見られました。研修後の復命書についても、全部署において代表者がコメントを記入し回覧をしています。研修に行った職員だけのものにせず、法人全体で共有をしています。今年度は、すこし研修内容の偏りがあったため、少し幅広い内容で、部会からも周知し、希望を募れるよう工夫をしていきます。

・内部研修は、人材育成部会で企画・運営を進めてきました。前年度まで、年1回実施してきた新人研修やOJT研修を、中途採用の職員にも1月～3月に実施しました。また、職員全体研修では、下半期は安全衛生部会による『防災について』や、リスクマネジメント部会による『危険予知』について学びました。研修で学んだことを、そのままにせず各々の部署の中で課題改善に取り組み、検証をし深めていくことができました。部会として、平日の夜(19時～20時半)の開催となるため、全員が出席できないことが課題として挙がっています。今年度は、開催日や開催時間、欠席者への補講等を検討していきます。

7. 苦情受付

件数	3件
----	----

主な内容、分析

【苦情の分類】

H30年度については上半期2件、下半期1件の苦情がありました。内容としては、安全配慮不足、利用者間における行為の報告の行き違い、また駐車場間違えといった確認ミスによるものでした。

いずれにおいても各関係者に対して、誠実に、対応方法であったり、今後の方針であったりを説明をすることでご理解を得ることができました。

今後とも苦情に関しては、法人への要望として捉え、サービスの質の向上へのよい機会をいただいたということで、対応していきます。

8. 事故報告

件数	41件
----	-----

主な内容、分析

上半期14件、下半期27件

【下半期件数内訳】

- ・発達児童 3(紛失1、転倒1、切創1) 児童の持ち物の紛失、公園での転倒等。
- ・発達放課後5(物損4、紛失1) 子どもの頭突き等による壁、自動車等の物損、名札紛失等。
- ・キャリア 2(切創1、その他1) 利用者同士の接触による怪我等。
- ・生活 7(切創3、車1、その他3) 利用者同士の接触による怪我、送迎時の事故等。
- ・就労 9(物損1、紛失2、転倒1、切創2、その他3) 備品破損、用具紛失等。
- ・就・生 1(物損1) 入口ガラス破損。

※発生した事故に関しては、一つ一つ事故報告書として作成することで発生状況、要因、暫定対策等を確認し、リスクマネジメント部会にて定期的な見直し、また恒久対策までの確認を行いました。

9. その他

- 6月26日 消防訓練(AM:児童発達、生活 PM:放課後デイ)
- 5月12日 防災教育 避難訓練(就労)
- 10月24日 消防訓練(AM:児童発達、生活 PM:放課後デイ)
- 12月22日 防災教育 避難訓練(就労)



実地指導

- 7月18日 キャリアサポートセンター
- 2月5日 相談支援センター、生活支援センター

法人本部一般指導監査

- 2月22日 法人本部

1	事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。	
2	事業内容	障害児通所支援	○児童発達支援
3	事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00	
4	職員体制	児童発達サービス管理責任者1名、保育士2名、指導員3名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一人一人の得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○一人ひとり向き合いながら、遊び・食事・排泄等、できている事、苦手な事をアセスメントし、更にステップアップすることが出来るように、スタッフ間で情報共有し、支援を行いました。 ○朝の会・外出学習・おつかい体験を通して成功体験が出来る場面を設定しました。 ○製作を自由活動に取り入れ、ハサミ等の道具を使用する機会を意識的に設定しました。 ○少人数で楽しむことができ、他児を意識することの出来る遊びを通し、簡単なルールのある遊びを取り入れました。	随時
		○個別支援計画に基づいた支援を行い、様子を記録し、振り返りと共有することで、支援内容の統一を図りました。また、新たな可能性や目標、継続の必要性から見直しを行いました。	6ヶ月毎
		○保育園・幼稚園の定期的な訪問、リハビリ見学、保護者参観・面談を行う事で、個々の発達に応じた療育を実施しました。	随時
	将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実していきます。	○個々の年齢・発達段階・体調により、活動内容や活動場所を選定し活動することが出来ました。	通年
		○公共の場でのマナーや交通ルールを学んだり、社会体験を積むことができるよう、季節に合わせた活動や交流を計画、実施しました。 ○外出学習やおつかい体験を通じて、公共の場でのマナーやルールを学び、様々な経験が出来るよう、活動を組み立てました。 4月:お花見(小遠足) 5月:水遊び 6月:水遊び 7月:プール遊び・アート活動・流しそうめん 8月:プール遊び・市民プール・流しそうめん 9月:アート活動・お仕事体験 10月:小遠足・ハロウィン・避難訓練 11月:りんご狩り 12月:おやつ作り・クリスマス会 1月:初詣 2月:豆まき 〈年間を通して〉 :外出学習(小布施ハイウェイオアシス・外食等) :おつかい体験	通年

		<p>:公共施設の利用(ハーモニー桃の郷・図書館等) *放課後等デイサービスと市民プール・流しそうめん、生活支援センターとアート活動・お仕事体験・豆まき等、他部署の利用者との交流を図りました。</p>	
		○登園後の荷物の処理、片付け個人の「お仕事」「役割」とし、自分で行う事が出来るよう支援しました。	通年
1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者との面談や参観、送迎時や電話による連絡を行い、情報共有しながら支援を行いました。	随時
		○保育園・幼稚園訪問、支援会議、リハビリ見学を行い、情報を共有したり支援の手立てとして役立てることが出来ました。	随時
		○支援会議や自立支援協議会(こども部会)、地域発達支援会議に参加し、情報交換やチーム支援を行いました。	随時
		○特別支援学校の先生を招き、児童発達全保護者を対象に就学説明会を行いました。	6月
		○児童発達全保護者を対象に保護者会を開催し、保護者同士の情報交換の場を設定しました。	12月
		○年長児の保護者を対象に、児童発達全保護者を対象に放課後等デイサービスの説明会を行いました。	2月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○センター内・部署内でのミーティングに加え、朝の申し送り・ホワイトボード・回覧での情報の共有、支援方法や課題の共有・検討を行い、情報の共有や支援の向上に努めています。	ミーティング (月1回) 申し送り (毎日)
		○ヒヤリハット・事故報告書の作成を行い、ミーティングで取り上げ状況確認と検討をし、再発防止に努めています。	随時
		○活動責任者・荷物の管理等、交代しながら行うことで、スタッフの責任意識を高めています。	通年
		○外部研修への参加をしています。 ・幼保小園連絡会・地域発達支援会議・学校説明会・こども部会・権利擁護推進基礎セミナー・サビ管研修	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○児童発達支援事業のパンフレットを関係機関に配布・補充し、当センターを知ってもらい、必要と思われるご家庭への配布や設置をお願いしました。	随時
		○ホームページを作成しました。	2月

(発達別紙)

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
H28	年度	24	2	9	7	6	6	1765	71.4%
H29	年度	27	2	7	10	8	2	2039	84.5%
H30	上半期	24	0	6	7	11	4	1010	83.3%
	下半期	27	3	6	7	11	3	1014	85.1%
	年度	27	3	6	7	11	7	2024	84.2%

○分析

○利用児童、3月現在27名の登録。リハビリ・園行事・感染症等で欠席する児童がおりますが、稼働率は安定しています。保健師・療育コーディネーターからの紹介やパンフレットの効果からの新規利用、見学・体験希望が増え、新年度利用予定者が4名確定しています。H29年度は千曲市からの利用希望者が多くいましたが、千曲市に児童発達支援事業所が複数できたことで千曲市在住の利用児童は今後減少すると思われます。療育コーディネーターや保健師等と連携し、長野市内を中心に新規利用者獲得のための宣伝活動がさらに必要となってくると思われます。
○昨年度に引き続き、保育園・幼稚園・保健センター・医療機関・行政等を訪問し、宣伝用のパンフレットを配布したり、ホームページでの宣伝も新たに始め、利用者確保に繋がっています。相談員と情報交換も、今後継続していく予定です。

2. 連携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園・幼稚園移行
H28	年度	42	14	55	4
H29	年度	63	6	29	3
H30	上半期	15	1	30	5
	下半期	28	5	17	0
	年度	43	6	47	5

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、教育(各幼稚園・保育園、各特別支援学校、各学校、教育センター)、医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院、長野日赤、長野中央病院、各保健センター)、行政(市町村健康福祉部、保健所、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分析

○保健師、療育コーディネーターからの紹介で利用に繋がるケースが主となっています。園と併用している方には園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には体験交流事業等の情報提供や園開放に同行することで体験交流や就園のお手伝いをしました。また、医療機関でのリハビリを行っている方に関してはOT・ST・PTの様子を見学させていただき、支援の参考にさせていただいています。
○関係機関と連携を図りながら、保護者の方の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、H30年度上半期は5名の児童が保育園への移行をすることが出来ました。下半期は0名でしたが、新年度4名の保育園入園が確定しています。週1回の登園から4日の登園…と児童によって利用の頻度は様々ですが、児童の様子を観察しながら完全移行を目指しています。

1	事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやることのできる力を育めるような支援をしていきます。	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
		地域生活支援事業	○移動支援、タイムケア、自立サポート
3	事業概要	放課後等デイサービス 開設時間平日8:30～18:00 サービス提供時間15:00～18:00(放課後時間に合わせて) 定員10人 休日8:30～18:00 サービス提供時間9:00～15:00(休みに合わせて) 移動支援・タイムケア・自立サポート	
4	職員体制	放課後等 児童発達支援管理責任者1人、指導員3人、(うち常勤は1人) 地域生活支援事業 指導員等20人(非常勤職員)	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○利用者・家族の想いを聞きながら、遊びや、個別目標等の活動を通じて一人ひとりのニーズに合わせた支援を行いました。	通年
		○学校や家庭、他機関等からアセスメントを行い、個別支援計画に基づいた支援を行う事で、支援内容の統一を図りました。また、新たな可能性や目標、継続の必要性から計画の見直しを行いました。	通年
		○ご本人の様子や記録を基に、定期的なモニタリングを実施し、家族の方に確認をしていただきました。	6ヶ月毎
1	将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	○日常生活の中でのあいさつやお手伝い、整容等基本的な動きが習慣としてできるように支援しました。	通年
		○人との関わりや、出来る力を伸ばせるように、曜日や季節に合わせ、個別・集団活動を設定しました。	通年
		○季節に合わせた行事を計画し、その中で社会性やルールなどを学べる機会となるような活動を実施しました。 ・〈児童〉5月サンマリン長野、6月いちご狩り、7月戸隠からくり屋敷(雨の影響により中止)、8月バーベキュー、9月美ヶ原高原美術館10月ボーリング(4日間)、12月ディズニーシー、クリスマス会、1月初詣(善光寺)、2月チョコレート作り。	通年
		・〈大人〉大人の方を対象に、毎週水曜に夕方の余暇を楽しむ活動を実施しました。 外食、ボーリング、カラオケ、忘年会等。	通年
		○就労・生活支援センターと連携し、お仕事体験(清掃・封入・マウンター)を実施しました。	10月
		○キャリアサポートセンターと合同で、交流・活動(お出かけ・ゲーム等)を行いました。	下半期
1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者や学校と送迎時や電話にて、日常の場面や家庭等での様子の情報交換・共有を行い、保護者や利用者の思いを確認しながら支援を行いました。	随時

		○自立支援協議会(千曲市・長野市子ども部会)へ参加し課題の検討や情報交換を行いました。	通年
		○関係者・支援会議に参加し、日々の課題や可能性を共有しながら、統一した支援に向けて検討、連携を行いました。	随時
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○部署内でミーティングを行い、日々の支援や支援会議、個別支援計画等から、支援方法や課題の共有・考察・検討を行い、支援技術の向上に努めました。	月2回
		○ヒヤリハット・事故報告書等の作成を行い、状況確認と検討、再発防止に向けて必要に応じてモニタリングを実施しました。内容等はミーティング等で議題にし、意識・対策の共有を行いました。	随時
		○法人内の部会・研修や外部研修への参加を行い、支援技術や意識の向上を図りました。	随時
2	新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○相談支援専門員等と連絡を取りながら、空き状況の発信や希望者の見学を随時行いました。	随時
		○ホームページ掲載内容の刷新を行いました。	2月
		○保護者・部署で自己評価表アンケートを実施し、結果、課題、改善目標の検討・共有を行いました。また、集計結果の公表をホームページにて行いました。	6月～2月

(放課後別紙)

1. 利用状況

放課後等デイ

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
H28	年度	49	20	13	16	10	2763	95.3%	32
H29	年度	40	19	7	14	7	2812	96.1%	34
H30	上半期	39	21	8	10	4	1328	91.1%	35
	下半期	41	22	8	11	2	1274	87.9%	35
	年度	41	22	8	11	6	2602	89.5%	35

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	24	24	26	26	23	23	26	25	24	22	23	25
延べ人数	217	207	206	241	246	211	227	217	199	197	207	227
他実利用者数	190	206	197	188	170	203	206	200	197	170	170	205
稼働率	90%	83%	79%	96%	107%	92%	87%	87%	83%	90%	90%	91%

※他実利用者数=大人の利用者数+放デイ開所日以外の児童利用者数

※定員10名

3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
H29	年度	3	3	1	0	0
H30	年度	3	4	1	1	0

○分析

○4月より、計4名、年度途中より2名の計6名が新規利用となり、41名の登録となりました。また他事業所の増加に伴い、長野市南部の方の利用希望が増加しています。

○新1年生はまず学校に慣れていただくために、5月の連休明けからのご利用をお願いしていましたが、家庭の都合等で4月から利用したいといった要望が例年多く、今年度は4月からの利用にも対応しました。基本的には5月からの利用を勧めていきますが、今後も必要に応じて対応していきます。

○地域の小中学校からの利用希望も多く、地域校(中間教室含む)は、昨年度より4校増加の6校へ送迎を行っています。再来年度、長野養護学校利用者が卒業後は更に地域校への送迎も積極的に行っていきたいと考えています。また、課題としては送迎校数の増加や各学年の下校時刻の違いによりお迎えが毎年変動し調整が難しくなることが想定されています。

○学齢期に放課後、土日等たくさんのサービスを利用していた方々が卒業し、卒後大人のサービスを利用することで夕方の利用者数(タイムケア利用)が増加傾向にあります。土日の利用、また他事業所からの新規利用者の受け入れは現在見送っていますが、利用希望は多い状況です。サービス量、種類等も課題となっています。

2. 連携

		支援会議	関係先訪問
H29	年度	51	18
H30	上半期	25	7
	下半期	23	5
	年度	48	12

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所)、教育(各特別支援学校、各地域の小中学校、中間教室)、医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院、長野日赤、長野市民病院、栗田病院、篠ノ井橋病院、千曲荘病院)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分析

○利用については、児童発達での説明会、相談支援専門員や学校、保護者の方からの問い合わせにより、見学や体験、実際の利用に繋がっています。今後も継続的に情報交換を行い、事業所の特徴や、空き情報等の発信を行っていきます。

○各学校における支援会議は日常的なものになりつつあり、学校・家庭・事業所間での共通した支援方法の検討がなされるようになってきました。また、相談支援の更新時期やモニタリングの際にも関係者会議が開かれ、本人の様子や検討事項、事業所利用等について確認、共有をしています。また、学校で開催される会議は、就学時間後の開催も多く、支援と重なってしまう為、出席が出来ない現状も課題となっています。

○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活、が送れることを目標に支援に取り組んでいます。

1	事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
3	事業概要	定員10人 平日 開設時間10:00～19:00 サービス提供時間13:00～19:00 土曜・長期休暇 開設時間 9:00～18:00 サービス提供時間10:00～16:00	
4	職員体制	サービス管理責任者1名、指導員2名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	各利用者の想いを聞かせていただき、個々のニーズに合わせて目標をもてるように支援します	○個別支援計画作成に当たり、利用者一人ひとりと面談を行い、想いの傾聴に努め、目標の設定を行いました。	通年
		○医療機関、学校、相談支援専門員等関係機関との連携を図り、支援の方向性の統一を図りました。また、支援会議への積極的参加をしました。	通年
		○半年ごとにモニタリングを実施し、目標の確認を行いました。	1回/半年
1	学校生活等の現在の日常生活を自信をもって生活できるよう支援をします	○実際にあった困った場面や想定される事例をもとに、講座の中で、対策の検討からロールプレイを実施し、安心感に繋がる支援を展開しました。	随時
		○「教える」ではなく、利用者一人ひとりが自分で「考える」ことを大切にし、ワークシートの工夫をしてきました。	随時
		○座学だけではなく、実際の社会の場面にて体験ができる買い物や外出等の企画を実施しました。	随時
		○保護者アンケートを実施し、ホームページにて結果の公表を行いました。その中で情報共有が課題として多く上げられました。共有の仕方について、現在検討しています。	11月-1月
1	社会人になるための準備ができるように支援をします	○学校との連携を図り、卒業後に向けた支援会議や関係者会議に積極的に参加しました。	通年
		○高校生を対象に企業見学と体験実習を実施しました。実際に働く場を自分の目で見て、体験の場を提供しました。また、実施に当たり、見学・体験の際のポイントを事前事後学習を取り入れて、モチベーションの向上を図りました。	8月/3月
		○就職に向けたイメージ作りのために、就労支援センターと連携し、学習会への参加をしました。	4月/7月
		○将来に向けて、個別から集団に移行していくことに努めました。個別面談の中で、関係性を築きつつ、安心感を持って、集団に入れるように個別支援計画を立て、実施してきました。	随時

1	新規利用者の確保に向けた取り組みを行います 受付目標数:40名 登録目標数:45名	○須高地域相談室、千曲坂城相談室等長野市近隣の関係機関や市内養護学校、特別支援教室、長野市委託相談員、相談支援専門員、療育コーディネーター等へ訪問し、周知活動を展開しました。	通年
		○長期休業には、体験説明会を実施し、保護者及び児童が参加して頂き、利用に繋がりました。	7/28 8/18
		○支援会議に積極的に参加をし、関係機関との連携に努めました。	随時
		○年間の新規利用者19名。登録者数42名。 紹介経路として、須高・千曲坂城相談室や学校の進路担当、療育コーディネーター、相談支援専門員、主治医でした。	随時
1	保護者・関係機関との連携を強化します	○保護者との面談を行い、想いの傾聴に努め、個別支援計画への反映をしてきました。	随時
		○支援会議への積極的な参加をし、教育機関や医療機関との連携の強化に努めました。	随時
		○事業所公開日や土曜日の学習会等には保護者の方にも参加していただきました。そこでいただいた意見も参考に今後も展開していきます。	4月、7月 8月
		○長野市の自立支援協議会への積極的参加をし、ネットワークの構築に努めました。	1回/2ヶ月
1	職員の支援技術向上に努めます	○外部研修への積極的参加を行い、自己研鑽に努めました。	随時
		○支援会議で他事業所に訪問した際に、どのようなプログラムを展開しているか、見聞を広めました。自事業所でもできそうなことは取り入れながら進めました。	随時
		○各自参加した研修に関して、ミーティング時に報告をし、伝達する力の向上も目指しました。	随時

(キャリアサポ別紙)

1. 利用状況

放課後等デイ

		新規登録者数	登録者数	平均稼働率
H30	上半期	14	37	51.0%
	下半期	4	42	47.2%
	計	19		49.1%

※定員10人

登録者内訳

小学生	中学生	高校生
6	9	22
7	11	24

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	24	30	32	34	35	37	38	39	40	40	41	42
開所日	25	27	26	25	23	23	26	25	24	20	23	25
延人数	101	133	111	128	161	121	132	105	114	84	113	128
稼働率	40%	49%	43%	51%	70%	53%	51%	42%	48%	42%	49%	51%

○分析

○年間を通しての新規登録者数19名でした。
 主な紹介経路として、療育コーディネーター、相談支援専門員、医療機関が中心でした。
 新規で登録される方の8割が他事業所との併用での利用となる方が多い傾向にあります。そのため、利用が週1回や、隔週で1回等稼働率の増加には繋がりにくい傾向にあります。
 ○長期休業や土曜日には、小中学生の利用が増え、稼働率が上がる傾向があります。その他、水曜日が学校が早く終わるといふこともあり、利用の希望が多く見られました。現在は主に高校生の方が利用されています。
 ○下半期には、高校3年生が実習や学校自体がお休みに入り、教習所に通い始めたりと、普通学校の利用者を中心に定期的に入っている方の利用が無くなったため、稼働率の減少に繋がっています。
 ○課題として、登録者数は増えていますが、月1、2回の利用の方も多いため、次年度では、登録者数は40～45名を目標とし、1名の利用日数を週1～2回に増やしていきけるようしていくことで稼働率の増加を目指したいです。
 個別のみの利用やSSTのみをやってもらいたいとの要望も何件かありましたが、再度、キャリアサポートセンターの目指しているもの、活動の意味を丁寧な説明をしながらご理解いただけるよう努めていきたいです。

3. 連携

		支援会議
H30	上半期	44
	下半期	30
	年度	74

連携先

支援会議及び外部連携機関
 ○教育機関…山王小学校、小川小学校、裾花小学校、小川中学校、広徳中学校、相森中学校、更北中学校、篠ノ井西中学校、墨坂中学校、若穂中学校、東北中学校、東部中学校、松代高等学校、長野商業高等学校、長野西高等学校中条校、長野犀峽高等学校、長野養護学校、長野養護学校朝陽教室、長野養護学校須坂分教室、信大附属特別支援学校、稲荷山養護学校、若槻養護学校。
 ○医療機関…竹重病院、東口メンタルクリニック、長野市民病院。
 ○福祉機関…森と木、インフィニティ、はびねす、にじいろキッズらいふ、みんなのムム、須高地域総合支援センター、千曲坂城相談室、アルカソニア、須高地域障がい者相談センター、ワークハウス、きらり、。
 ○その他…ハローワーク篠ノ井、若者サポートステーション、松代金属株式会社、西友三本柳店、信濃毎日新聞社

○分析

○多くの学校や医療機関を交えての支援会議が増えつつあります。これまでになかった東口メンタルクリニックにおける支援会議等も参加し、関係者での支援の方向性の統一が見られました。
 ○課題として、普通学校や通信制学校など様々な学校の利用者はいますが、学校によっては、連携不足な面が多々ありました。学校側からの対応としてもあまり福祉との連携について積極的ではない様子も伺えるため、訪問等を行い、連携に努めたいです。
 ○その他活動として、夏休みに一般企業へ、体春休みに西友三本柳店で体験実習、信濃毎日新聞社の印刷工場への見学を実施しました。一般企業における働く姿勢や商品として売り出す責任感を感じられるように、講座を提供しました。実際に働くことを体験することで課題が明白になり、講座の内容にフィードバックしていくことができていると思われまます。

1	事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。	
2	事業内容	障害福祉サービス	生活介護事業、自立訓練事業(生活訓練)
3	事業概要	生活介護 定員20名 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～16:00	
4	職員体制	サービス管理責任者1名、支援員6名、准看護師1名(非常勤)、運転手2名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	<p>○利用者の1日の様子を日誌に記し、ご家族と密に連絡を取りました。本人・保護者からの不安や悩みが強く感じられた場合は相談支援専門員に連絡を取り、必要に応じて支援会議や個別に面談を行う中で利用者や家族の想いを聴かせて頂き支援を行いました。</p> <p>○22名の利用者・保護者に対し年間2回の面談と支援会議15件、障害支援区分調査4件を行いました。利用者それぞれに担当を設けモニタリング会議を行い、管理者が個別支援計画を作成しました。</p> <p>○作業や支援内容に変更があった際は、ご家庭に相談・報告の徹底を図りました。</p>	随時
1	活動内容の充実を図ります。	<p>○生活介護の「はたらくプログラム」に関しては、就労組・生活組に分かれて2カ所で作業に取り組みました。</p> <p>○外部の事業所から請け負っている内職作業は、入荷量に波はあるものの、週1回定期的に平均2,000個の作業を仕入れ・納品する事が出来ました。シール貼りの作業では、利用者1人1人に合った道具の改良を重ね、作業に慣れてきた事もあり、約2,000個のシールを安定して貼る事が出来るようになり、不良品が出てしまう事も少しずつ減ってきました。</p> <p>○新しく雑巾を縫う作業を始めました。就労支援センターの清掃作業で使う雑巾として使ってもらえるような物が出来るように取り組みました。雑巾に縫う場所の印を付けると、印に合わせて縫えるようになってきました。</p> <p>○法人内の清掃作業や利用者宅から金魚すくいポイ作成・カレンダーの封入作業の依頼が来て納品を行いました。</p>	随時
		<p>○「くらす・あそぶプログラム」に関しては、スタッフ間でプログラムを担当し、スケジュールを立てる事により、スムーズな流れで活動が出来るようになりました。</p> <p>・外出:上田城・象山神社・長野駅前・足湯 等</p> <p>利用者が増えた事により、2つのグループに分かれて、別日に外出をする事で、安全や利用者の嗜好に配慮して活動が行えました。</p> <p>・外食:2ヶ月に1回(ファミリーレストラン)</p> <p>・調理実習:2ヶ月に1回(ハヤシライス・豚汁)</p> <p>・DVD鑑賞:月1～2回</p>	10月～3月

		<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動:月1～2回 プラパン作り・絵画 等 ・アート活動:2ヶ月に1回から毎月1回に変更(講師を迎え)墨遊びや絵の具、クレヨンを使い絵画 ・公園でウォーキング活動:10月～11月 月1～2回 ・音楽を聴きながらリラクゼーション:月1～2回 ・ウィズでの体操:月2回 ・図書館:月1回 	
		<p>○「健康管理」に関しては、毎日の検温・月1回体重測定・保健だより(熱中症・感染症予防)の制作を行いました。</p> <p>○利用者の身体状況の変化が見られた際は、保護者に連絡を行いました。また、利用者の平均体温を把握し、早退及び経過観察をする事で体調の悪化を未然に防ぐようにしました。</p>	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	<p>○養護学校・生徒の実習生を延べ8名受け入れました。</p> <p>○見学者として保護者9名、担任2名に来て頂き、センターの取り組みを説明させて頂きました。</p> <p>○定期的に看護学校からの実習生を受け入れました。</p> <p>○養護学校の進路指導主事に活動内容や空き状況を説明し、利用や実習の受け入れました。</p> <p>○発達支援センター利用者に「はたらくプログラム」の体験をしてもらえるような場を作りました(2回)。</p> <p>○長野市障害福祉ネットへの参加をしました。</p>	随時
2	職員の支援技術向上を目指します。	<p>○ヒヤリハットや事故・苦情・気づきの中から、再発防止に努めるようにしました。各プログラムに向けてのシュミレーションを行う中で、スタッフ間の情報の共有方法について見直しを行いました。</p> <p>○ミーティングの時間を夕方から、朝の時間に変更し、なるべく多くのスタッフが参加できるようにしました。ミーティングでは、個別支援計画の目標に基づいた支援の見直しや確認、情報共有や事故に関する事を中心に行いスタッフ間で統一した支援が出来るように努めました。</p> <p>○外部の研修に参加し、センター内で報告会を行いました(3回)。</p>	随時

(生活別紙)

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数	障害種別			
				身体	知的	精神	発達
H28	年度	18		4	14	0	0
H29	年度	22		4	18	0	0
H30	上半期	23	3	4	19	0	0
	下半期	22		4	18	0	0
	年度	22	3	4	18	0	0

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
H28	年度	1	7	5	4	4.4
H29	年度	1	7	9	5	4.8
H30	上半期	1	8	9	5	4.8
	下半期	1	9	8	4	4.7
	年度	1	9	8	4	4.7

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	25	24	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	23
開所日	20	21	21	21	19	18	22	21	19	19	19	20	20
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延人数	333	356	348	345	317	300	376	346	308	294	308	312	329
稼働率	83%	85%	83%	82%	83%	83%	85%	82%	81%	77%	81%	78%	82%

3. 送迎利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H29 延人数	435	492	492	451	419	443	430	401	467	433	435	471	447
H30 延人数	523	548	534	535	484	449	580	532	472	449	456	463	502

○分析

○4月から定員が14名から20名に変更となりました。
 ○4月から養護学校を卒業された方3名が利用開始となりました。5月に1名、11月に1名が利用終了となり年度末の時点で利用者が22名になっています。
 ○送迎を希望される方が多くなり、86%の方が送迎を利用しています。新規に入られた方も送迎を希望し増加しました。
 ○活動面においては、利用者の人数に対し室内の手狭さがあるため、利用者の増加に伴い引き続き2グループに分けて活動を行いました。センターから外出する際には、一度に全員外出するのではなく、日にちをずらして活動を行い、3グループに分かれて外出をする事で、スタッフの混乱や利用者同士のトラブル減少に心掛けると共により安全に楽しく過ごして頂けるようにしました。

1	事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加して行くことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらきたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。	
2	事業内容	障害福祉サービス	○就労移行支援 ○自立訓練(生活訓練) ○就労定着支援
		助成金・補助金	○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)
3	事業概要	定員:就労移行14名、自立訓練6名 開設時間:平日8:30-17:30 サービス提供時間9:00~16:00 施設外就労(老人福祉施設での清掃活動)を中心に、計画的に実施する座学を通して、一般企業内において『はたらく』をイメージできるよう年間を通して積極的に一般就労の機会を提供します。また、企業の方が障害福祉について理解を深められるよう伝えていくとともに、継続的な職場定着を支援致します。	
4	職員体制	○管理者1名 ○サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員(就労移行)1名 (自立訓練)1名 ○職業支援員1名	
5	事業計画		

優先順位	事業目標	平成30年度上半期実績報告	実施月
1	一般就労を目指します (目標就職者10名以上)	【就労移行、自立訓練】 ○個別支援計画から、個別での週間の振り返りを実施しました。本人が自分の計画書を考案し、振り返りを行うことで、課題が明確化し、その都度必要な目標の設定ができました。	2/週
		【就労移行】 ○年間計画を立て、計画的に見学・実習を実施しました。新規の方と2年目の方などの年数やモチベーションの向上・働くイメージ作りなどの目的別に見学を行うことで、その方に合わせた計画を立て、実施しました。	通年
		【就労移行】 ○就職者数8名。 【就労移行・自立訓練】 ○保護者懇談会の実施 事業所での様子や就職にむけての課題共有など、家庭との連携の確認や情報共有を実施しました。	9月3月
1	【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせた働く場を場所を提供します	【就労移行、自立訓練】 ○施設外就労として、老人ホームでの清掃を実施してきました。また、接客をイメージした仕事として、西友での訓練を実施しました。施設内での作業ではなく、企業の中での訓練を行うことで、より働くことのイメージや、社会の一員としての自覚を取り組み、働く力を身に付けていくことができました。	通年
		【就労移行、自立訓練】 ○単発の施設外就労として、ワックス・絨毯クリーニング作業を意識的に導入しました。(3福祉施設にて実施) 特殊作業の体験、時間内作業の内容がとてもよい訓練となりました。	7.9.10月
		【自立訓練】 ○「就職までの道のり」の再確認しながら、自己理解を深まる取り組みをおこないました。そのためには自身で考える機会となりました。	通年
		【就労移行、自立訓練】 ○土曜日開所として、社内学習会を開催しました。	毎月
1	【就労移行・就労定着】 就職後も安心して働き続けることができるよう、丁寧なフォローアップをします (目標定着率80%以上)	○就職後のフォローアップを、ジョブコーチを中心に、他機関と連携を図りながら、定着できるよう支援を展開しました。就職者のうち離職された方は1名です。 ○定着支援事業を1月より開始し、利用者4名を1回/月の定期訪問又は電話連絡や面談等を行いました。安定している方へも定期的なサポートを行うことで、ご本人・企業・ご家族に安心を提供できました。	通年

1	職員の就労支援技術の向上を目指します	○外部研修への参加を行いました。 ○内部研修への参加及び研修の報告会を実施しました。	随時
		○毎週水曜日にスタッフミーティングを実施しました。 内容を事前に精査し、効果的な会議運営に努めました。欠席者への伝達等意識して、統一した支援を心がけました。	毎週
1	新規利用者の確保に向けた活動を展開します (目標年間平均稼働率80%以上)	○各関係機関への訪問を行い、情報交換やパンフレットの補充を継続して行いました。1~2名/月ほどの見学者があり、体験後に3名の方が利用に繋がりました。 見学者 14名 体験者 6名 体験からの利用者3名	通年

(就労別紙) H30年度

1. 利用状況(就労移行)

		実利用者数	新規利用者数	稼働率
H28	年度	12	5	52%
H29	年度	25	14	73%
H30	上半期	16	6	83%
	下半期	16	5	75%
	年度	21	11	79%

障害種別				
身体	知的	精神	発達	その他
0	11	3	7	0
0	11	2	11	0
0	8	7	1	0
0	7	3	6	0
0	11	3	7	0

利用状況(自立訓練)

		実利用者数	新規利用者数	稼働率
H30	上半期	5	2	54%
	下半期	4	0	49%
	年度	5	2	54%

障害種別				
身体	知的	精神	発達	その他
0	2	1	2	0
0	2	1	1	0

1) 就労移行 月別利用人数(定員14名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	21	22	21	22	20	20	23	21	21	20	20	21
登録者	16	15	13	13	12	12	12	11	12	12	13	13
延人数	319	312	260	270	236	212	246	228	223	185	224	210
稼働率	109%	101%	88%	88%	84%	76%	76.40%	77.55%	75.85%	66.07%	80.00%	71.43%

2) 自立訓練 月別利用人数(定員6名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	21	22	21	22	20	20	23	21	21	20	20	21
登録者	4	4	5	5	5	5	4	4	4	4	4	3
延人数	60	67	79	83	74	76	69	60	71	61	61	51
稼働率	48%	51%	63%	63%	62%	63%	50.00%	47.62%	56.35%	50.83%	50.83%	40.48%

2) 出身地域別 (内 自立訓練)

	上半期	下半期	年度
長野市	15(4)	16(3)	20(4)
千曲市	1(1)	0(1)	1(1)

3) 利用経路 (内 自立訓練)

	上半期	下半期	年度
市町村	0	0	0
就業・生活支援センター	1	0	1
ハローワーク	0	0	0
医療機関	0	0	0
教育機関	8(1)	9	11(1)
相談機関	6(3)	6(3)	8(3)
その他	1(1)	1(1)	1(1)

○分析

【就労移行】

週3日の出勤からスタートするようなケースも多く、利用開始当初は稼働率は低くなりますが、ご本人の決めた出勤日には休まず来ることができた方がほとんどであったと思われます。相談機関からの見学依頼を年間12名受け、下半期は3名の方が利用につながりました。登録数を大きく減らすことなく年度末には定員を1名割るに留まりました。毎年、養護学校の実習受け入れをした学生が利用につながるケースが多く、今年度は14名実習を行い、6名の利用につながりました。来年度も積極的に実習や見学等の受け入れを行い、教育機関・相談機関と連携して活動していきたいと思っております。

【自立訓練】

自立訓練にて生活面が整い、就労移行にサービス変更された方や時間をかけて就職を目指したいと就労移行から自立訓練に変更されるなど、ご本人の希望や状態に合わせた利用をしていただきました。自立訓練を希望して来所される方が少なく、新規利用に繋がらなかったため、今年度作成した自立訓練のパンフレットを活用し、来年度は各関係機関等へ周知活動を積極的に行いたいと思っております。

2. 実習状況

		短期トレーニング	施設外支援	ジョブコーチ支援数
H28	年度	13	13	19
H29	年度	19	38	22
H30	上半期	9	22	14
	下半期	5	26	13
	年度	14	48	16

実習先(職 種)

【上半期】川中島工業(板金・鉄材の穴あけ)、小林食菌(きのご瓶の清掃)、サマンサジャパン(リネン業務)ホテル信濃路(宴会場の準備、片付け)、タルト(ケーキ製造補助)、酒のスーパーたかぎ(酒類の補充)福田青果(野菜の袋詰め)、松代金属(部品組み立て)、ブックオフ(店内清掃、コミック補充)
 【下半期】藤屋御本陣(食器洗浄)コックフーズ(ラベル貼り、梱包)、マルイチ(精肉加工補助)、ダイハツ(洗車)愛知電機(清掃業務)、長野労働金庫(清掃業務)、タカ商(レトルト食材の袋入れ)

○分 析

年間計画に沿って、見学・体験・実習を計画的に実施してきました。新規利用者は、会社見学先をいくつか提示した中で、ご本人が希望する職種の会社見学を実施しました。初めは就職活動をスタッフと一緒にしますが、「水曜日は就職活動の日」が定着し、自分で活動することが身に付いてきています。ご本人が選んだ求人に見学・体験・実習を積極的に行ってきました。見学は年間35件行い、就職に向けたイメージを膨らませ、モチベーションアップに繋がりました。今後もご本人の希望に添って、個別での活動に力を入れていきたいと思ひます。体験、実習については、日程設定等、目的に応じた内容で行っていきます。

3. 就職状況

		就職者数	定着支援件数
H28	年度	10	9
H29	年度	11	10
H30	上半期	5	4
	下半期	3	3
	年度	8	7

就職先(職 種)

【上半期】サマンサジャパン(リネン業務)、タルト(ケーキ製造補助)、酒のスーパーたかぎ(酒類の補充)スズキ自販長野(洗車、店内清掃)、セブンイレブン(レジ・接客)
 【下半期】マルイチ(箱詰め、梱包)、愛知電機(清掃業務)、長野労働金庫(清掃業務)

○分 析

下半期における就職者は3名で、今年度の就職者は8名となりました。1名は上半期に就職・離職し、下半期に再就職しています。実際に会社で働くことで自分の課題を知り、再就職先では、周りのアドバイスを真摯に受け止め、会社が必要とされ働くことができている。離職支援を丁寧に行うことで、前向きな離職となり、次の就職につなげることが出来ました。体験・実習を行い、企業からは雇用したいとお話があつても、ご本人が断り、就職に結びつかないケースが2件ありました。自分で考えて決めることで、ステップアップして次へのチャレンジにつなげることが出来ました。

目標の就職者10名は達成できませんでしたが、利用者主体で活動し、決めていくことを大切に活動することができました。課題としては、利用終了間際になって就職活動に力を入れ始めるケースが多く見られたため、準備性も大切にしながら、計画的に就労体験、実習につなげていくことが重要と感じました。また、事業所と企業の見立てにずれが生じ、就職に繋がらないケースがあつたため、早い段階で企業側の要望を捉え、客観的な視点でサポートしていきたいと思ひます。また、ジョブコーチ支援の課題は、準備訓練の課題でもあると捉え、部署内で話し合いを密に行い、支援の質の向上に努めていきます。

今年度より定着支援制度がスタートし、現在4名の方が利用しています。今後は就職時に定着支援についての説明をご本人・ご家族・企業に向けて行い、6か月のJC支援終了後、希望に応じて移行していきます。

1	事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。	
2	事業内容	相談支援事業	○指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業
3	事業概要	開設時間平日9:00～18:00	
4	職員体制	相談支援専門員2名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	基本相談支援を行います。	○基本相談はウィズの各センターを利用する方を中心に継続した支援を行いました。相談支援機関として客観的な視点をもてるようにしてきました。	随時
1	質の高い事業者を目指します。	○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画の作成を行ってきました。 ○モニタリングについては、法人内各事業所と連携しながら効率的に実施できるよう努めました。	随時
1	関係機関との連携を強化します。	○基本相談、サービス利用を行っていく上で、必要に応じて家庭、行政、教育、福祉、その他機関との連携を行ってきました。 ○相談支援専門員の質的向上のために長野市で開催されたスキルアップ研修に参加しました。	随時

○利用状況

		障害児相談支援(子ども)			特定相談支援(大人)			相談支援専門員数
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
H27	年度	49	70	12	43	39	17	2(専従1、兼務1)
H28	年度	56	66	9	44	49	15	2(専従1、兼務1)
H29	年度	61	80	11	49	55	23	2(専従1、兼務1)
H30	年度	57	92	14	58	61	21	2(専従2)

○分析

登録者数については、サービスの新規利用時に増加し、サービスの終了時(主には進学や就職)に減少するといった状況にありますが、ほぼ横ばいとなりました。
全国的に相談支援事業所としての質的向上が求められ、報酬としても評価の対象となりました。行政においても人材育成のための研修等活発に行われ、各種研修に参加しました。1月に相談支援専門員が増員となり、適宜引継ぎを行ってきました。

1	<p>職場定着支援の充実を図ります。</p> <p>定着率：90%</p>	<p>○定着職場訪問件数:1002件 うち精神障害者に対する職場訪問の割合:39.6割</p> <p>○センター登録者に加えて、ハローワーク、福祉事業所等の他機関からの就職者、在職者からの相談依頼を受けて、定着支援を行いました。</p> <p>○来所面談・電話・職場訪問を行いました。ご本人や周囲の話を聴いたり、職場での様子から問題の予防や早期発見に努めました。必要に応じて支援会議を設けて情報共有や問題解決を図りました。</p> <p>○今年度は例年になく離職者が増加しましたが、本人・会社共に、今後につながるような前向きな離職支援となるように心掛けました。</p> <p>○主任職場定着支援件数:38件 生活面での課題は他機関と、仕事に関してはジョブコーチと連携を図り支援をしました。</p>	通年
1	<p>圏域内のネットワークの構築を目指します。</p>	<p>○他機関との連携について 就労支援ではハローワーク・障害者職業センター・福祉事業所等と、生活支援では相談員・相談支援専門員・まいさぼ・社会福祉協議会・保健師・医療機関・成年後見センター等と連携をしました。他機関からは、就職活動や定着支援における相談依頼を受けました。ケースを通じて連携をすることで、関係性の構築につながりました。</p> <p>○専門性の高い職種を希望する方については、求人開拓員につなぎ、個別の開拓を行いました。</p> <p>○各地域の就労部会に参加して、事業所や行政との顔つなぎ、地域の動向や課題把握に努めました。</p>	随時
1	<p>就職希望者や在職者への講座や交流会を行います。</p>	<p>○在職者交流会(ポットーク) 5月、7月、11月、1月の年4回実施しました。3回目は精神・身体の方を対象に、よくある悩みを題材にしてグループトークを中心にしました。4回目は全障害を対象にし、仕事に関する一年の振り返りをした後に新年の目標を発表し合いました。その後に親睦会としてランチを企画し、多くの参加がありました。</p> <p>○就職ミニ講座(10月) 合同就職面接会前に、面接会の対策(基礎・応用)／自己PR・応募書類のポイントについてと内容別に3回開催し、6名程度の参加がありました。</p>	随時
2	<p>職員の就労・生活支援技術の向上を目指します。</p>	<p>○毎日17時～、毎週水曜日にミーティングを行い、担当しているケースの進捗状況や課題について報告し情報共有をしました。互いに意見を出し合い、ご本人にとってより良い支援を模索しています。日々の意見交換を通じて、職員1人ひとりの支援力の向上を図りました。</p> <p>○他機関主催の研修に参加して、支援における知識向上に努めました。</p>	随時

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

障害種別・就業別

		期末利用者数	新規利用者数
H28	年度	504	111
H29	年度	634	130
H30	上半期	549	69
	下半期	616	67
	年度	616	136

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	26	17	217	84	120	8	371
求職中	16	5	62	20	138	8	224
その他	0	0	16	3	5	0	21
合計	42	22	295	107	263	16	616

1) 出身地域別

	上半期	下半期	年度
長野市	417		
千曲市	45		
須坂市	44		
小布施町	3		
坂城町	5		
信濃町	5		
飯綱町	11		
小川村	4		
高山村	5		
その他	10		

※下半期は算出不能

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度
ハローワーク	17	9	26
職業センター	0	0	0
特別支援学校	0	13	13
就労移行	16	14	30
福祉施設	10	5	15
行政	4	4	8
直接利用	4	9	13
その他	18	13	31
合計	69	67	136

3) 相談・支援(システム上)

		件数
H28	年度	10,596
H29	年度	11,191
H30	上半期	3,613
	下半期	3,557
	年度	7,170

4) 月別利用人数(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度
206	213	207	242	230	191	240	242	198	230	220	195	2614

○分析

・新規相談について

ハローワーク、就労移行からの相談が多くみられました。就労移行からは実習を目的とした利用者が多く、ハローワークからは実習希望に加え、すぐに就職が難しそうなお方や支援者が付いた方がいいと思われる方の相談が多くありました。また市町村委託の相談員や精神保健福祉センター、相談支援専門員などからは「就職＝ポツセンター」の流れで問い合わせがありましたが、就労準備性や生活面で課題がある方が多いのも現状です。

・登録者について

年間の新規登録者は136名で登録者数は616名でした。過去2年間の新規登録者の平均は120名であることから、ご本人やご家族が支援を必要としている方が増えていることが伺えます。在職者の登録が371名と半数以上占めており、定着支援の重要性を感じています。

・生活面について

福祉サービス利用につながった相談は21件(就労移行13件、自立訓練1件、就労継続B型5件、就労継続A型2件)です。生活支援ワーカーによる相談については、「就労(29.13%)」、「不安解消・情緒安定(17.56%)」の相談が多い状況にありました。金銭面の課題から就職を焦る方、就職を希望するが情緒が安定しない方など、就労と生活両面の相談が増えているため、関係機関と役割分担をしつつ連携を図りながら支援をしています。

・相談・支援について

3)の通り、年間を通じて安定した相談件数になりました。来年度以降も相談・支援件数は7,000件前後となる見通しです。

4)では、相談として受けた延べ件数を記載しました。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率
H28	年度	122	4	35%
H29	年度	134	8	41%
H30	上半期	74	1	44%
	下半期	90	1	43%
	年度	164	2	43%

○分析

就職面接会後に実習が多くあり、下半期に実習件数が増加しました。年間の実習件数は164件で過去2年と比較して大幅に多い件数でした。職場実習の有効性が多方面に広まっていることが伺えます。しかし、センターとしては月平均12件～14件の実習支援を実施することで、他の業務に支障が見られるため次年度以降、業務を円滑に回すとともに丁寧な支援を目指し、月の定員を定める等のルール作りを検討しています。

3. 就職状況

主任職場定着支援ワーカーの相談状況(実人数)

		就職者数	定着職場訪問
H28	年度	74	731
H29	年度	70	772
H30	上半期	52	605
	下半期	25	399
	年度	77	1004

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
業務内容	0	0	6	0	2	0	8
対人関係	0	0	5	1	3	0	8
生活面	0	0	7	4	12	0	19
その他	0	0	2	2	1	0	3
合計	0	0	20	7	18	0	38

○分析

- ・ 就職について
過去2年間の年間の平均就職件数72件に対して、77件と増加しました。どこにも所属せず、当センターのみに相談している求職者の就職件数が55名でした(昨年比+4件)。短期トレーニングを含む職場実習から43名が就職につながりました。昨年よりも職場実習を行った求職者数は増加していますが、年度末まで実習を行って就職の可否が次年度に持ち越されているケースもあるため、下半期の就職者数はあまり伸びませんでした。
- ・ 定着職場訪問について
過去2年間の平均定着職場訪問件数は、751件で、250件程度多くなりました。在職者の総数が増加したことや定着支援担当以外の職員も定着訪問をすること、職場定着に悩む中長期の在職者への支援を手厚くしたこと等が理由として考えられます。反面、職場実習件数の増加により、支援が必要な企業へ訪問しきれなかったことが課題として挙げられます。厚労省より精神障害者の定着支援訪問目標率を全体の30%としています。上半期としては39.6%でした。精神障害者の就職数が増えたことから丁寧に職場定着に繋げることを意識して支援を行いました。
- ・ 主任職場定着支援ワーカーについて
今年度18件が離職に至りました。主な理由としては、短期もしくは長期の怠業、過度な労働や対人ストレスからの体調不良によるものでした。また、仕事や生活、体調、メンタル全てにおいて就労準備が整わないまま就労継続をしてきたケースや、離転職を短期で繰り返すケースが退職時に会社や関係機関とトラブルとなる案件がいくつかありました。